

様式第3号

会 議 録

会 議 名	川西市総合計画審議会（第3回）		
事務局（担当課）	企画財政部政策室（政策担当）		
開催日時	平成19年10月24日（水）午後6時30分～9時		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	（別紙会議録に記載）	
	その他		
	事務局	（別紙会議録に記載）	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	3人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	（別紙会議次第のとおり）		
会議結果	（別紙会議録のとおり）		

平成19年度第3回川西市総合計画審議会 会議録(要約)

平成19年10月24日(水)

午後6時30分～午後9時

川西市役所4階 庁議室

出席委員

末尾出席者名簿のとおり

川西市

益満企画財政部長

(事務局)

本荘政策室長

大屋敷政策室主幹

石田政策室副主幹

金淵政策室副主幹

畑中政策室主査

(開会)

(会長あいさつ)

会長

- ・きょうは、前期の計画の達成状況について、御意見をいただきたいと思います。
- ・達成できなかったところが重要で、具体的に皆さんの方からこれからの方向等も含めて、御意見をいただきたいと思います。
- ・全体の達成状況について事務局から説明をお願いします。

事務局

- ・川西市の総合計画につきましては、分野別の指標というものをつくっています。
- ・市民、事業者と行政がまちづくりの目指す水準、達成すべきまちの姿というものを、政策の分野ごとに、わかりやすく示した指標で、全部で52指標あります。
- ・毎年度末には、その達成状況を、確認把握をして、次の年の計画推進に反映させるようにしています。
- ・52指標のうち、成績のよくない指標を12ほどピックアップしています。

(健康福祉都市)

- ・まず最初は、健康福祉都市の「福祉ボランティアの登録数」です。
- ・福祉ボランティア登録数をふやすという目標を立てています。
- ・グラフのように、平成14年が、2,086人で、平成19年度には2,639人を目指しましたが、若干下がっていく傾向にあります。
- ・18年度は1,876人と下がりました。
- ・このボランティア登録数は、市のボランティア活動センターの登録ボランティア、地区福祉ボランティア、地区福祉委員会の人数の合計です。
- ・担当課においてもボランティアが増えるように呼びかけやボランティア講座もやりましたが結果として伸びませんでした。
- ・今後は、若い世代と団塊の世代を中心に、ボランティア登録への働きかけ、呼びかけをしていくということです。

会長

- ・減っているというのは、なかなか厳しいですね。一回少し増えてはいるんですね。

委員

- ・川西市には約50団体のボランティアとボランティア連絡協議会があります。
- ・社協に登録されてボランティア連絡協議会に入っているのは、13団体だったものが、現在は11まで減っています。
- ・現在、社会福祉協議会の4階をボランティアの方々の拠点になるように改造リニューアルしている最中で、今後、いろんな情報が得られて発信もできるというようなことを考えています。

委員

- ・この福祉ボランティアというのは、どういう福祉ボランティアを目標にして、どういう講座を開かれているのですか。

委員

- ・特に、団塊の世代や今後定年を迎えられる方をボランティアとしてターゲットとする講座ということ聞いています。

委員

- ・ボランティアをやりたいという人はいるかもしれないけれども、どんな内容のものをやったらいいか知らない人は、案外多いのではないのでしょうか。
- ・減る原因も知らないために減っているのではないかと思います。

会長

- ・ポテンシャルは十分あるけれども、なかなか突破口と言うか、最初の一步が難しいんじゃないかと思います。

委員

- ・この平成14年度というところに問題があり、この年はNPOがかなり発展した時代でNPOを奨励した年です。
- ・NPOは、有償ボランティアというところに問題があるとも考えています。
- ・今後は、若い人や団塊の世代にとって魅力のあるようなボランティアを募集する方法をとらなければいけないと思います。

会長

- ・有償、無償というのは、やはり実際に動いておられる方にとっては、大きな問題のようですね。
- ・コミュニティビジネスは、有償の事業展開を進めていますが、無償のボランティアの方と有償の方が同じ組織の中で働いているということがあって、このあたりは、組織のマネジメントが大変難しいという話を聞いたことがあります。
- ・一つの組織の中でも、また、地域全体の中でも、そういうものが混在し始めていて、そのあたりがなかなか難しいようです。

委員

- ・これからは、社協の広報や冊子も、もう少し手に取って見ていただけるようなものをつくろうと研究しているところです。

会長

- ・ボランティアの登録数ということだけで、川西市の社会に対する姿勢を測るのは難しいというのが実態ですね。
- ・そういう意味で、もう少し他の要素も加味しながら、このあたりの数値の推移というものを見た方がいいのかもわかりません。

委員

- ・福祉ボランティアの登録数を増やすことが目標になっていますが、数を増やすことが目標じゃないと思います。
- ・社協や他も含めて、どういう人に協力してほしいということを、もっとわかりやすくしてほしいと思います。

事務局

- ・次は、「子育てがしやすいと感じている市民の割合」という指標です。
- ・これは市民実感調査というアンケート調査の数値で、「子育てがしやすい」「どちらかといえば子育てがしやすい」と答えた市民の割合を示しています。
- ・あとの資料にも共通しますが、市民実感調査で確認した数値は、もともと19年度の目標値というのを定めていません。
- ・14年度以降は、大体20パーセント未満あたりを推移しており、18年度も19パーセントという数値が出ており、市も、この間に民間保育所を市内で4か所整備をしています。
- ・地区福祉委員さんや主任児童委員さんによる「町の子育て広場」、小学校での「留守家庭児童育成クラブ」も続けています。
- ・市立幼稚園での園庭開放や子育て支援・相談もやっていますが、この実際の数値というのは変わっていません。
- ・実感調査では特に、子育て世代と言われる20歳代、30歳代、40歳代に「小児科とか産婦人科が少ない」「子育てにかかる経済的な負担が大きい」という意見がありました。
- ・このアンケートでは、「どちらとも言えない」という選択肢もあり、これが43パーセントと一番多くなっていて、実際、子育てを終えられた方や子育て前の世代が含まれた数値となっています。

委員

- ・この市民の割合という対象は、どういう人ですか。

事務局

- ・16歳以上の方を無作為に抽出し、現在、子育てをされておられない世代の方も含まれています。

委員

- ・川西に仕事場がまずあり、安い住居があって、企業に保育所があれば、本当に一番環境的にはいいと思います。
- ・企業とドッキングすることなどを考えた方がいいと思います。

会長

- ・企業との連携が重要ではないかというのは、ポイントだと思います。
- ・最近ですと、政府も自治体も企業の取り組みを市民に知らせていくということを始めています。
- ・川西市の男女共同参画審議会で、そういう議論もされているのではないかと思いますので、情報提供していただければと思います。（後日提供）

委員

- ・共働きで子育てをするときに、「19時過ぎぐらいまでしか預かってくれるところがない」というのは、医療の話も含めて一番わかりやすく、かつ、こういう指標に響きやすいところかなと思います。
- ・全体的に市は、いろいろ取り組みというのはやっていて、自分らが子どものころに比べてやっていると感じています。

委員

- ・逆に本当に子どもを預けるのがいいのかどうか、これは見直す時期に来ているのではないかなと思います。
- ・朝早くから夜の遅くまで預かってほしいというのは、子どもや教育にとっていいのかどうか。将来のためにいいのかどうかを考えるべきだと思います。何が何でも、保育所をたくさんつくれというのは、どうかという気がします。

委員

- ・子育てがしやすいというのは、施設などのハードの問題か、サービスの問題かということに分かれますし、何が整えばしやすいと感ずるのかなと思います。
- ・何をやっても子育てがしにくいと感ずるのかもしれないし、先ほどの意見のように、とりあえず何かをしようと思われるようなターゲットとか、一般的にこういうのが必要じゃないかというふうな目標を洗い出してはどうかと思います。

委員

- ・川西市の母子家庭のパーセント、他都市との比較を教えてください。かなり、川西市は母子家庭が多いと思っています。

会長

- ・事務局の方でその資料をお願いします。（後日提供）

（教育文化都市）

事務局

- ・「いじめを受けたことがある子どもの割合」の指標です。
- ・これは、小学校5年生から中学校2年生を対象に、教育委員会が子どもの実感調査を2年に一度行った数値です。
- ・その中で、「いじめを受けたことがある」とか「少しある」というふうに答えた子どもの割合がこの数値となっています。
- ・平成15年の36.5パーセントに対し、平成19年には25パーセントぐらいに戻そうと

いう目標を立てていたところですが、平成17年においては、35パーセントと、平成15年に比べ余りかわっていないというような結果が出ています。

- ・市としては、「子どもの人権オンブズパーソン」を設置したり、学校における子どもの悩み
の問題対処についても積極的に取り組んでいます。

会長

- ・これも川西市だけではない問題だと思いますが、総合計画で取り上げるには、ちょっと重い
指標ですね。
- ・教育委員会でも、専門的などころで議論されていると思いますが、全体を見るという点でこ
の指標を取り上げられたと思います。

委員

- ・このアンケートには子ども自身が答えているのでしょから、自分が嫌だと思ったことに
関して、いじめがあったというふうに認識すれば、それで回答してしまうので、この数値は
絶対的に信頼できるものではないと思います。
- ・学校はよく頑張っているなという印象は受けますが、とかくクローズにしがちですので、今
後は外部評価、いわゆる学校評価というものを取り入れてほしいと思います。

委員

- ・「子ども110番」の旗が家庭に貼られていたり、車が走っています。これはどの程度の成
果を上げているのですか。

委員

- ・非常に顕著に出ているのではないかと思います。当初、「子ども110番」の家は、無作為
にやっていましたが、今は通学路に沿った安全経路というものに、その旗を掲げてくださ
いという要請をかけていて、徐々に形を進化させている状況にあると思います。
- ・パトロールしている人たちというのは、安全に対する意識が高く、だんだんと高まっている
という機運をつくってくれていると考えれば、非常に成果が出ていると思います。

会長

- ・学校だけではなく、地域で支えるような機運はあるということですか。

委員

- ・機運はあります。学校安全協力員制度があったり、もちろん青少年の補導があったり、警察
では防犯だったり、いろんな部署でそれぞれ持っていますから、あとはその連携をうまくと
っていければいいなと思います。

会長

- ・次は「生涯学習」です。

事務局

- ・「生涯学習の条件が整備されていると感じている市民の割合」の指標です。
- ・これも市民実感調査でアンケート調査した結果の数字ですが、平成14年度から、20パーセント前後を水平に推移しているという状況です。
- ・これも「どちらとも言えない」という方が45パーセントぐらいです。また、50歳代を境目にして、60歳代、70歳代になれば、逆に「整備されている」と感じている方が増えてきて、この年代の約30パーセントぐらいの方は「整備されている」と感じているという結果です。
- ・一方、30歳代では10パーセントを切るような状況で、全体的に生涯学習については「必要だ」と思われている方が9割ぐらいいますが、その反面、「生涯学習に取り組む時間的な余裕がない」という方も50パーセントいて、「金銭的な余裕がない」という方も30パーセントいます。
- ・「公民館の講座に興味がある」という方は、60パーセント弱ですので、全体的に仕事をされている間は、公民館に行ったり、生涯学習に取り組むというのは無理なのではと感じます。
- ・生涯学習の問題点という項に絞ると、「興味がある講座とか教室というものがやや少ない」が約33パーセント、「講座や教室の曜日とか、時間が自分の生活に合わない」が28パーセント、さらに、「どんな講座があるのか、どういう教室があるのか、知らないというかわからない、情報が不足している」が約25パーセントですので、この対策を講じる必要があるのではと思います。

会長

- ・基本的には、市が提供している市民講座のようなものに対する評価というふうに考えていいんでね。

事務局

- ・はい。市では公民館を中心にして、生涯学習センター、図書館等で、社会教育、生涯学習を展開しています。

会長

- ・本当に勉強する気があったら、例えば、大学なんかでいろいろとやっていますね。
- ・本当に行政がこれをしないといけないのかについては、個人的にはちょっと疑問があります。

委員

- ・機会は結構あると思いますが、場所がよくても、本当に集めるのって大変ですね。

- ・これは機会が開かれていないという問題ではなく、情報が伝わっていないか、興味の対象が違うとかだと思います。

委員

- ・退職された方は地域で多分、余り同年代の知り合いとかがいないので、顔を合わせていく場としてとらえるのであれば、また意味があるのかなというふうには思います。

委員

- ・生涯学習の機会として、生涯学習短期大学「レフネック」や「高齢者大学」がすごく人気ですね。
- ・このOBも活躍しているんですが、この目標に掲げているように、地域活動を活発に行うことができるというのは、やはりボランティアです。
- ・地域活動までつなげる勉強会の目的だったら、ちょっと違うという感じです。それがボランティアにとっては一番のテーマなんです。

委員

- ・例えば、年金の問題とか、パソコンとか身近な問題や差し迫った問題を学習内容にすれば、それなりの人が勉強するのではと思います。

委員

- ・市の各部署でいろいろやっていますが、予算を集めて、どんといいのをやってもらいたいと思います。

会長

- ・それが総合計画ですから、非常に重要だと思いますね。市の方も考えていただきたいと思います。

(環境共生都市)

事務局

- ・ごみ問題ですが、「1日1人当たりのごみ排出量」という指標です。
- ・平成14年からのスタート時点で1日1,020グラムのごみを出していました。目標とする19年度には、966グラムにしようということで途中まで順調にいきましたが、18年においては、逆に増えてしまうという結果が出ています。
- ・ただし、この数値は全ごみ量を人口で割った数字です。全ごみということは、可燃ごみ、不燃ごみがまざった数字で、可燃ごみだけを考えれば、結構順調に減っています。

会長

- ・このあたりの読み方を少し事務局の方で解釈を精査するようにしてください。これに関して

は、ここをちょっと無視すれば大体、順調に減っているということでもあるわけですね。

- ・これは今後、分野ごとにきちっと時間を取って議論をすることにしますので、「公園」の方に行きましょう。

事務局

- ・「公園を満足して利用している市民の割合」を調査した結果です。
- ・10パーセント前後をうろうろしているような結果で、「どこが悪いのか」という突っ込んだ質問をしたところ、多かったのは「犬の糞が公園に落ちている」で、それから「ベンチが少ない」「トイレがない」「照明が少ない」というような回答となっています。

委員

- ・公園のトイレについてですが、有料でもいいからトイレをつくってほしいというのが正直なところですよ。
- ・砂場は全部フェンスで囲って、犬とか猫とか入れないようにしているところもあるので、そういうこともしていただけたらなと思います。

委員

- ・アンケートの結果をもう少し掘り下げてみて、公園というのは本来何をするためにつくられているのかということから考えるべきだと思います。
- ・芝生があったり、老人や子どもがベンチに座られていたりして、ステージの舞台があって、どんなイベントが来ても、そこで何かできるような場所があればいいと思います。

会長

- ・一庫ダムの公園部分って、本当に大きいですよ。そのあたりはどうですか。

委員

- ・そうですね。やはり管理費でしょうね。広いところをつくってもいいんですけども、いろんなダムを見ていると、後の管理がやっぱり追いつかなくなって、打ちやめるところも全国的に多いですね。

委員

- ・運動公園を管理している立場から、管理は行政にではなく、市民みんなが出て、草抜いて、石拾って、斜面でもみんなが楽しめる花畑にするというようにすべきで、何でもかんでも行政というのではだめです。

会長

- ・今のお話は非常に大事で、ストックとしては、市も整備されてきていると思いますが、そのストックをどう使いこなしていくのか、メンテナンスはだれが払うのかなど、これはやはり、

市民との協働でやっていかざるを得ないでしょうし、そういう仕組みをどうつくっていくのということにかかっているのかもしれないですね。

(快適安全都市)

事務局

- ・「生活道路が安心して通行できると感じている市民の割合」指標です。
- ・これは各年度とも30パーセントを前後するような数値で推移しています。
- ・「生活道路を安心して通行できる」と感じていないなどのネガティブな回答は、年代が高くなると増えてくるという傾向が出ています。
- ・また、「どういうところが道路としてよくないか」という質問をしたところ、多かったのは、「歩行者の近くを自動車とか単車が通る」ということです。
- ・他は、「道路に犬のふんが落ちている」「歩道が狭い」「自転車や単車のマナーが悪い」ということです。

委員

- ・行き止まり道路というのを本当はつくっていった方がいいのかなと思います。行き止まり道路であれば、子どもが道路で遊べるということもあるので、これからはそういった方にも目を向けていったらいいのかなと思います。
- ・それと、電柱は立てる場合は、民地側にぜひ入れるような条例をつくっていただくことも可能であればしてもらいたいと思います。歩道幅が1メートルしかないところに電柱があると、全然歩けないということがあります。

会長

- ・両方ともなかなかいい御提案ですが、第一点目のフードサックというのか、突き当たってしまう形状のプランニングというのは、すごく重要だと思います。
- ・もう一步踏み込んで、地中に埋めてしまえとおっしゃるのかと思いましたが。

委員

- ・それは財政的に無理だと思っていますので。

委員

- ・先月、ベルギーに行きましたら、全然、電柱も電線もないんです。どこへ行っても。何でこんな広々と開放的なんだろうと思ったら、電柱と電線が空にないんです。

会長

- ・ただ、コストの問題ですね。

委員

- ・川西は自然に恵まれています、猪名川沿いは歩道がないですね。
- ・それと、川西の中心街も歩道がないです。新しく開発されたところは、ちゃんと歩道がついていて、生活道路も幹線道路もきちっとしていますが。

委員

- ・アステ川西前の国道176号線は、電柱を地中化していると思いますが、夜にそこを通ると電柱がなくて、街灯があり非常に綺麗だと感じます。やっぱり、自分の土地に電柱が立つと嫌な方もおられるので、地中化を進めていく方がいいんじゃないかなと思います。

委員

- ・国道176号線は確かにきれいです。通学路になっているところの電信柱は、子どもの通行の妨げになるので、以前に県民局に埋設化をお願いしたことがあります。

委員

- ・国道、県道は、特に川西地域の場合は、国道も県の管理です。安全面からは地中化を進めようとしていますが、コストがかかりますので、そうすんなりとできるかというのは難しいと思います。

委員

- ・会長が指摘されたように、今は歩道と車道の段差をなくして、しかもカーブをたくさんつくって、スピードが出ないように工夫しているところがあります。何箇所か行きましたけれども、非常に安全です。そういう町並みが新しい町並みになっていますね。だから、狭いところでも工夫すればできないことはないと思います。

会長

- ・それでは、地震・火災という、「災害の備え」にいきましょうか。

事務局

- ・「地震や火災などに対する災害に対する備えができている市民の割合」です。
- ・これも20パーセント台を推移しています。阪神・淡路大震災から、既に12年がたっていますが、あの頃の教訓が人々の心の中では忘れかかっているんじゃないかというような結果になっています。
- ・調査をしている期間中も、大きな台風とか、遠くで地震があれば、若干、反応があって数値が上がったりしています。
- ・火災については、建築基準法が改正され、住宅に火災報知機の設置が義務づけられたため、消防本部が、特に高齢者の家庭などを重点に啓発活動を行っています。
- ・家庭での防災対策について突っ込んだ質問をしたところ、「災害に対する備えをしていな

い」という方も70パーセントと多くなっています。しかし、その方々のうち40パーセントの方は、大地震とか火災とか水害に遭うかもしれないという危機感を持っています。ただ、その中でも3割の方は「備えることがおっくうだ」という結果です。

会長

- ・5割の人は、わかっているけどやっていないという結果ですね。

委員

- ・一庫ダムは、去年から洪水期に月1回、サイレンの吹鳴訓練をやっています。いざというときに鳴らないと大変ですから訓練させていただきました。通常のように、御迷惑をかけていると思うんですけども、こらは、時々思い出すというのも大事じゃないかということでやらせていただいています。

(産業活力都市)

会長

- ・そうしましたら、次の「産業活力」にいきましょうか。

事務局

- ・まずは、小売商店数のデータです。これは市内の小売商店数の統計です。平成14年の1,075事業所を19年度までこの水準を維持しようという目標を立てていたところですが、16年度の調査においては、1,018事業所まで下がっています。
- ・これは景気の動向によるものであるのかもしれませんが、2年に1回の調査ですので、完全なものかどうかという見きわめも難しいかと思えます。

会長

- ・ここだけではなく、全国的な問題でもあろうかと思えます。

委員

- ・小売業ということですが、市内の事業所数ではないですね。

事務局

- ・はい、小売業です。工業につきましては、別の指標で持っておりまして、それも横ばいという感じです。

会長

- ・あえて皆さんに伺いますけれども、この小売商店数は減るとだめなんですか。要するに、生活に問題なければというか、皆さんが使わないからなくなっていくわけではないのですか。

委員

- ・企業努力も、私たちが臨むようなことではないわけです。

会長

- ・その接点をどうつくっていくかですね。

委員

- ・成功しているまちづくりを何か所か見てきましたが、町に車を入れない、町の中心街に駐車場をつくらない、そこは歩けとすることによって、小さい商店が生き残れるということです。
- ・郊外型の大きな店が増えると町がさびれるというのが、私が何か所か見てきた町の状況です。
- ・ただ個人の努力とか住民の努力ではなしに、そういう仕組みをつくるのがやっぱり大事だと思います。

委員

- ・小売業の方も、市民の方に求めるだけで、市民へお返ししようというような関係が多分薄れてきているんだと思います。
- ・ですから、そういう努力をできるように事業者としては努めていきたいなと思いますね。

会長

- ・10円、20円高くても、今おっしゃったように、地域のすぐそばにあるコミュニティショップみたいなのだったら、十分に別の付加価値をつけて顧客と地域の人たちに返すやり方があるような気がします。

委員

- ・最近、ローソンとかのコンビニがすごく増えています。そこへ行けば夜遅くまでもものが買えます。

委員

- ・多分、競争者は大型店舗ではなく、そこだと思いますね。要するに、店の方から近づいてきているんですよ。皆さんの方に。だから、高くてもみんな行くんですよ。

委員

- ・必要なものは近くで買う、でも週末に車に乗って三田に行ったり、伊丹に行ったりという消費を、今の若い世帯がしているので、これからの高齢者に向けて、地域の商店がどうしていくかっていうのをしっかり考えれば、また、生き残ることはできると思うんですけども。

委員

- ・コンビニエンスストアが地域のコミュニティの側に寄ってくるというのは、十分な付加価値だと思うんです。それで、皆さんはコンビニを選択する。高くても選択するということになっているわけですから、もし動かないんだったら、動かない付加価値を商店街の人たち、商店の人たちも考えていくということだと思います。

会長

- ・ それでは、市内総生産にいきましょう。

事務局

- ・ 「市内総生産」ですが、川西市がどうこうというよりも日本全体も含めて、景気の話もありますので、先行きも含めて取り扱いが難しい指標かなという気がしています。

会長

- ・ 市内総生産はわかりやすいんですけども、例えば、市民の豊かさという点から見たら、1人当たりの市民所得とか、そういう指標の方がよかったかもわかりません。これは、市全体として、この指標を取りたいのはわかるけれども、市民にとって、これがどういう意味があるかということになると、1人当たりの市民所得の方がいいかもわかりません。

委員

- ・ 健康福祉や教育文化の中でも話が出ましたけれども、やっぱりキーワードの一つとして、市内の企業を育成するというのは大きいところだと思います。
- ・ だれがそれを大きくしていくかというのは、我々の努力ですけども、ただ、この育てる音頭を取ってもらうのは、基本的にはやっぱり行政だと思います。
- ・ どういう仕組みをもって、今後取り組んでいただけるかということが重要かなと思います。例えば、入札のことについても何かと条件がついて、その資格がないと入札には入れません。
- ・ いまは、国、県、市が横並びになって対応している状況がりますので、全部が全部じゃありませんけれども、私の知っている範囲では、そういうことが見受けられます。こういうことでは企業は育ちませんよね。規制ばかりでは。
- ・ その中で、どうして市が規制にこだわるかというのは、結局、市民からの声だと思いますので、市民の理解をいただく努力を、我々がしないといけないという結果でもあります。

会長

- ・ これから都市が自立を考える上では、そういう方向性を持っておくべきでしょうね。

委員

- ・ これから人口政策というのが、非常に大事になってくると思います。高齢化が進んでいますので、働く人を増やして、若い人の町を目指すというのが、非常に大事な要素になってくるんじゃないかなと思います。

委員

- ・ 伊丹とか、尼崎ってというのは、工場が出ていったあとは皆マンションが建っています。だから、やっぱり人口の構成比ってというのが、これから問題になってくると思います。

会長

- ・このあたりは、川西の非常に大きな課題で、皆さんで議論していただきたいんですが、この領域のときにしたいと思います。

会長

- ・では、自治体経営にいきましょうか。

(自治体経営)

事務局

- ・「性別役割分業を否定する市民の割合」は、男女共同参画社会の実現という点にかかる指標です。
- ・14年度から15年度に数値が上がって、そこから下りていますが、これは、14年度の調査の仕方が15年度と若干変わりましたので、こういうトレンドをしているということで見ただければと思います。
- ・「男は仕事、女は家庭」を否定する人は、18年度は40パーセントで、肯定的な人は約13パーセントです。残りの40パーセントの方は、どちらとも言えないという回答です。
- ・これに関しては、それぞれいろんな意見がありますが、市では男女共同参画社会が実現するような施策を行っていきたいというふうに考えてます。

委員

- ・私は講座にも参加し、自分自身はその意識は高いつもりですが、世の中の考え方というのは、まだ、徐々にではあるとは思いますが、昔からの考えもありますし、ある面ではそういうような気持ちを持っていても、引かざるを得ないというのもあります。
- ・この賛成というのは、どうなんでしょうか、ずっとふえているんですか、横ばいですか。

事務局

- ・賛成という方、肯定されている方というのは、平成14年度で20パーセントありましたが、その後は15パーセント、13パーセントあたりで、どちらでもないという方のみが、増えている傾向にあります。

会長

- ・最後ですけれども、情報の問題です。

事務局

- ・「必要な市の情報が入手できると感じている市民の割合」です。
- ・これは、40パーセントを少し切るか切らないかというぐらいのところまで推移しています。
- ・市としては、まず、広報紙で情報を伝えていますが、特に19年度からは紙面のカラー化と

か、活字を大きくするとかいうことをして、情報発信に努めています。

- ・また、ホームページも新しく作りかえることをしていこうということも検討しているところですし、ケーブルテレビや情報冊子の発行等も進めています。
- ・実感調査では、高齢者よりも若者の方が、「やや入手できにくい」という実感をお持ちのようで、高齢の方は、「入手できている」という方が多いという結果が出ています。

会長

- ・高齢の方は、きちんと広報紙等を見ておられるということなのでしょうね。若い人は、そんなものも見ずに情報がないないと言っているという可能性はありますね。

委員

- ・最近、市のホームページから調べものをしようとした時に調べられなかったんです。市民が欲しい情報がわからないのと違うかなと思いました。
- ・私たちが本当に欲しいと思っていることが、何なのかっていうのをわかっているのかなという感じがあります。

会長

- ・ホームページのデザインがまずいということなんでしょうか。

委員

- ・デザインというのか、検索ルートも悪いし、情報自体がわかりにくいという感じがします。
- ・川西市のホームページの構造がまずいと思います。

委員

- ・2年ほど前にデザインを変えましたね。そのときよりはよくなってきているんだけど、何か、もう一つ、アイデアが悪いみたいな感じがします。

委員

- ・よそのものと比べたら、川西市のホームページは比較的情報はたくさん入っている方だと思います。

委員

- ・市を擁護するわけではないけど、情報量が多くなればなるほど、あの構造も複雑になってくるんですよ。だから、もうちょっと簡素化してもいいのじゃないかなと。お年寄りでもわかるように。

事務局

- ・デザインについては、来年度以降、モデルチェンジも含めて検討しているところです。各所管が情報を出しやすくしたり、つくり込みやすくなるような工夫をしようとしているところ

と聞いております。

委員

・先日、今の市長さんが、どういう選挙公約を出されたのかというのを、改めて見ようと思いましたが、どこにもなくて、総合計画の位置づけと市長の公約という市長の思いとの位置づけはどうなんですか。

会長

- ・これから領域別に、議論を皆さんにさせていただきますが、その領域別のところで、行政が原案をつくって、我々がそれに基づいて議論をするわけですけれども、その段階で多分、市長さんのそういう思いみたいなのが出てくるんじゃないですか。
- ・選挙で選ばれたトップが、行政のあり方についてどう思っているのかというのは、やはり皆さんと議論しながら、総合計画の中に持ち込むべきことでもあるでしょうから、その辺はきちっと事務局の方からも情報を出していただいて、これから何回にもわたる議論をしていただくということになります。
- ・それでは、今日の議論をそろそろ終わりたいと思います。
どうも、ありがとうございました。

川西市総合計画審議会（第3回）出席者名簿（五十音順）

氏名	職業等	選出区分	備考
秋田 修一	川西市PTA連合会長	市民団体等代表	
牛田 マサル	市民	市民公募	
太田 キミ子	市民	市民公募	
荻田 マサト	川西市商工会理事	市民団体等代表	
加藤 憲正	兵庫県立大学経済学部教授	学識経験者	会長
加藤 仁哉	川西市消防団員	市民団体等代表	
菅原 聡	川西市社会福祉協議会長	市民団体等代表	
杉 ミサカズ	一庫ダム管理所長	関係行政機関職員	
土肥 千生子	川西市コミュニティ協議会連合会理事	市民団体等代表	
中野 カズコ	神戸山手大学人文学部教授	学識経験者	副会長
中村 セイゴウ	市民	市民公募	
西岡 正博	阪神北県民局企画調整部企画調整・市町担当参事	関係行政機関職員	
山本 ノブヒロ	市民	市民公募	

平成19年度川西市総合計画審議会（第3回）会議次第

日時：平成19年10月24日（水）
午後6時30分～
場所：川西市役所4階 庁議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事
前期基本計画の達成状況について

4 その他

5 閉 会